

画像入力ボード導入の利点 ～「カイゼン」できることの強み～

株式会社アド・サイエンス 第2営業部／田山浩史

画像入力ボードを使ったシステム開発の利点を紹介する。

自社開発によって画像処理システムを製作した場合、その過程で知識や経験といった貴重な資産を得られることと思う。その資産は、日常の「カイゼン」を遂行するスキルへと続くものとなる。「自社開発にチャレンジしたいと思っているが、不安で躊躇している」という方にとって、基礎的な視点からその道標を示してみたい。

1

画像入力ボードを使う ということ

画像入力ボードを使うということについて、根本的に考えてみる。

まず、誰もが頭に思い浮かべるのが、手元のコンピュータのカバーを開き、画像入力ボードを挿入し、入手したドライバソフトをインストール後、アプリケーションを起動させ、画像を取り込む作業といったところであろう。

ほかには、「カメラや周辺機器の選定、コンピュータの選定や自社内での組み立て作業が必要」や「何となく、設定が難しそう」、「要望する仕様やスペックに適したボード、そしてピッタリのカメラを選べる」という回答もあることと思う。

この答えは、どれも概ね合っているが、整理してみると、次のようなことがいえる。

【画像入力ボードを使う場合】

- ユーザは、自社のために専用の画像処理システムをプロデュースする。つまり画像処理システム開発には、自己責任が伴う。

- コンピュータやカメラ、必要な周辺機器を選定する。
- 必要最小の構成や将来的な拡張を考慮しての構成など、自由に製作できる。
- 初期導入時、部材だけの費用で済む。
- そのシステムを扱う現場の要望によって、必要な機能のピックアップ、GUIやアプリケーションを作り込む。
- アプリケーション製作は、プログラミング作業であり、専門的知識を用いる。
- 必要なドライバやSDK（プログラム開発キット）は、各部材のメーカーから提供される。
- アプリケーション開発に必要な基本ソースコードやプログラムライブラリ、ヘルプマニュアルは、SDKに含まれて提供される。
- 最も重要なことであるが、「一度製作した画像処理システムに手を加える」ことは、その開発に携わった者にとって簡単である。

では、逆に、画像入力ボードを使わないことについて、その意味を考えてみる。